World Vision

この子を救う。未来を救う。

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2013年度 プロジェクト・サポータープログラムによる活動報告書

募金件数：12,459件
募金金額：26,876,000円
募金期間：2012年10月1日～2013年9月30日

プロジェクト・サポーターの皆さまからいただきましたご協力により、アフリカやアジアで、水不足や劣悪な母子保健環境などにより健やかな成長が阻まれている子どもたちの支援を行うことができました。感謝とともに、ご報告いたします。

保健衛生と母子保健のための支援

カンボジア

支援地域の状況

カンボジアでは、5歳未満の子どもたちの平均死亡率は1,000人あたり43人（日本は3人）、妊産婦死亡率は10万人あたり250人（日本では5人）と、乳幼児や妊産婦にとって厳しい環境にあります。とくにバンティメンチェイ州では、5歳未満の子どもたちの死亡率は96人、また妊産婦死亡率も270人と全国平均よりも高くなっています。

背景には住民の保健衛生に関する知識不足、保健センター（公立の医療機関）利用への関心の低さがあります。また政府の予算不足による保健センターの医師不足なども、大きな要因となっています。

※数値の出典：「2010年カンボジア政府統計」、「世界こども白書2013」

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- **支援地域：カンボジア、バンティミエンチャイ州トモプオ保健行政区内の213村**
- **支援目的：住民の保健センターの利用が普及し、妊産婦と5歳未満の乳幼児の健康が改善されること**
- **支援対象の人々：213村の妊産婦と5歳未満の乳幼児**

まず40村を対象に聞き取り調査を行い、栄養不良の子どもの数、産前産後に健診を受けていない妊産婦の割合などの保健状況を把握しました。データは、今後の保健センターの活動を通した支援のために役立てられます。

保健センターのサービス改善のために、スタッフへの研修を行うとともに、夜間の出産に必要な照明とバッテリーを支援しました。地域住民が利用しやすくなる環境づくりの一環として、どうすれば保健センター利用が広まるかなどについて、センターと住民リーダーとで隔月に話し合いの時を持つようにしました。

また、お母さんなど保護者に対し、正しい保健衛生に関する知識を持ってもらうために、研修や啓発を行いました。また、子どもたちと住

支援により予防接種を受けた子どもたち。注射は痛かったようですが、受けた証明である指に塗られた紫の染料を見せてくれました（カンボジア）

民を対象に、病気の予防の大切さなど保健衛生の基礎についての啓発キャンペーンを行い、実際に子どもたちに、はしかと風疹の予防接種を行いました。さらに、地域で蔓延している急性呼吸器感染症の予防と対処法、栄養不良の改善方法、産前産後健診の重要性などを、保健センタースタッフを通して住民に伝えました。

住民の保健衛生環境の改善のために、今後も引き続き、啓発活動を行っていきます。

山間地など交通事情の悪い村では、支援で研修を受けた保健センターのスタッフが出向いて、住民の啓発活動を行います。写真は、保健センターのスタッフから下痢の予防について説明を受けるお母さんたち

聞き取りを行う青年調査員たち

母子保健の状況を把握するための調査では54名の青年たちが活躍しました。

青年たちが521世帯を訪ねて、「妊娠時に保健センターに健診に行きましたか」「出産はどこで行いましたか」「赤ちゃんの予防接種は済ませましたか」といった質問を行い、回答を集めました。

これらの調査を通して、青年たち自身も知識を得たり、意識を高めたりすることができます。彼らの人々の健康づくりへの貢献が期待されます。

聞き取りを行う調査員のシナさんとフェヌさん（左）

マラウイ

支援地域の状況

マラウイの中部に位置し大半が山岳地帯にあるンチシ県（人口237,000人）は、収入源も少なく人口の76%以上が厳しい貧困のために、慢性的な食糧不足となり、栄養不良に苦しんでいます。とくに、体力のない子どもや妊産婦などの健康状態が悪化しています。政府の保健医療サービスも十分行き届かず、県の記録では、一回でも産前健診を受けている妊婦は76%、施設で出産する女性は38.6%で、大多数が医療知識のない伝統的産婆の介助のもとで危険な出産を行っています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- **支援地域：マラウイ、ンチシ県**
- **支援目的：保健衛生環境の改善により、女性たちが安全な出産ができるようになること**
- **支援対象の人々：妊産婦とその家族、乳幼児、医療従事者など約45,000人（今後3年間の予定）**

今後3年間行う支援活動のうち、昨年度は次のような活動を行いました。

ワールド・ビジョン（以下、WV）スタッフが医療従事者とともに家庭をまわり、安全な出産と母子保健のための啓発を行いました。また、男性も含む地域の人々との集会を開催し、衛生的な施設での分娩の重要性について伝えました。その啓発のためのポスターを作成し、2014年1月に配布します。

支援により、衛生的な分娩の重要性について説明を受けるお母さんたち（マラウイ）

安全な水のための支援

タンザニア

支援地域の状況

タンザニアの農村部では水の確保が重要な課題となっています。とくにムゲラ郡では、十分な量の飲料水や生活用水を確保できる人々は41.1%、片道徒歩30分内で水が手に入る人々は17%であり、多くの人々が毎日水汲みに遠くまで通っています。また、遊牧民にとって、生活の支えである家畜に与える水は欠かせません。水を求めて、村から遠く離れた場所まで移動する遊牧民も多く、その子どもたちは通学を中断せざるを得なくなります。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- **支援地域：タンザニア、ムゲラ郡サウニ村**
- **支援目的：人々の水不足が解消され、生活と健康が守られるようになること**
- **支援対象の人々：水不足に苦しむサウニ村の人々、6,826人（農民、マサイ族などの遊牧民）**

ワールド・ビジョン・ジャパン（以下、WVJ）は、2008年10月よりムゲラ郡で地域開発支援を行ってきましたが、その活動のなかで、奥まった場所にあるサウニ村が、地方行政サービスが届きにくく、水不足が深刻であることが判明しました。村の住民が安全な水を安定的に確保することを目的に、次のような活動を実施しています。

水源近くに、汲み上げた水を保管する貯水タンクを設置し、人々の生活圏内に水を供給する給水所を建設します。同時に、貯水タンクから給水所までつなぐ水道管を敷設し、人々が身近な場所でいつでも水を手にいれられるようにします。

また、住民への衛生管理に関する研修を実施するとともに、施設の維持・管理を行う水委員会を地方行政と共同で設立し、住民による設備の存続を可能にします。

皆さまからの募金により、上記の活動を開始する運びとなりました。これまでに、村のリーダーたちや住民、そして村が属する地区の行政官と、事業実施のための覚書を締結しました。住民や子どもたちがいつでも安全な水を得られ、衛生環境も改善され、子どもたちが学習を継続でき、また家畜も維持できるように支援を行います。

マサイ族の人々と、給水所で水を飲む家畜たち。人々は管理された水道を利用します（タンザニア）

担当、松岡スタッフのコメント

サウニ村では慢性的な水不足に対処するために、以前住民自身で少額を出し合い、地下水を汲み上げるための穴を掘削しましたが、資金不足で中断せざるを得ませんでした。彼らの自主的な努力を後押しすることで、人々の生活状況を少しでも改善していきたいと願っています。皆さまからのご支援に感謝いたします。

サウニ村の小学生スビラちゃん（14歳）の声

水は私たちの生活に欠かせないものです。私たち生徒は、教室の掃除や手洗い、また木に水をやるための水を、毎日1ガロン（約3.79リットル）学校に持って行かないといけません。家でも飲み水、食事の準備や洗濯のための水がたくさん必要なので、学校が始まる前に2時間以上も水を探すことがあります。そのために時々授業に遅れます。水道が完成したら、もう今までのように水を学校まで運んだり、授業に遅れることもなくなります。支援を受けることになり、とてもうれしいです。

スビラちゃん

東ティモール

支援地域の状況

支援対象のボボナロ県の多くの住民は、小規模農業で自給自足する貧しい人々です。道路や水道、病院といった社会的な設備も十分でなく、安全な水が手に入りにくいので飲料水や生活用水も不足し、さらに手洗いやトイレを使用する習慣がないために下痢や感染症が大きな問題となっています。抵抗力が弱い幼児にとって、下痢は病気の原因になりやすく、直接・間接的な死因となっています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- **支援地域：東ティモール、ボボナロ県**
- **支援目的：人々の水不足が解消され、生活と健康が守られるようになること**
- **支援対象の人々：水不足に苦しむボボナロ県の人々、約1,800人**

手洗いのための啓発イベントで行進する子どもたち（東ティモール）

WVJは、3つの集落で水資源開発の支援を行っています（2014年2月末終了予定）。水源を整備するとともに、水源近くに貯水タンクを設置、そこから人々の生活の場まで水道管を引きます（3〜4キロ）。給水場は、人々の住居から200m以内であることが求められます。

施設完成後は、住民が水をいつでも手に入れることが可能となり、主に女性や子どもの役割であった水汲みが軽減され、子どもたちは遊びや勉強の時間が増えます。

人々は、建設に自ら参加することで、施設が自分たちの財産であるという意識を持つようになっています。また、設備の仕組みを伝えることで、自力で補修ができるようにします。

さらに、衛生についての啓発にも力を入れ、特にトイレの使用や手洗いの重要性を伝えています。健康に関心の高いお母さんたち、また手洗いやトイレ使用の習慣を受け入れやすい子どもたちに対しては、重点的に、集会やイベント、放課後のクラブ活動という場で啓発を行っています。

2014年3月からは、あらたに5つの集落で同様の活動を行う予定です。

南スーダン

支援地域の状況

スーダン（北）と国境を接するアッパーナイル州ファショダ郡では、清潔な水を手に入れることが難しく、人々は濁った川の水を飲んでいます。さらに、トイレを使う習慣のない人々も多く、屋外で排泄を行っているため、衛生環境の悪化が深刻です。子どもたちは教育を受ける校舎もなく粗末な小屋で授業を受けています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

- **支援地域：南スーダン共和国（南スーダン）アッパーナイル州ファショダ郡**
- **支援目的：子どもたちの水衛生、教育環境の改善**
- **支援対象の人々：内戦で破壊された村で、保健衛生サービスが行き届かない人々**

※2013年末に発生した武力衝突により、活動は休止中

啓発のために、手洗いのデモンストレーションを行う子どもたち（マラウイ）

WVJはジャパン・プラット・フォームと協力して、子どもたちの水衛生、教育環境を改善する活動を行いました。

子どもたちに、国際手洗いの日（10月15日）に、石鹸で手を洗う大切さを伝え、手洗い方法のデモンストレーションを行いました。また、子どもたちの衛生意識を育てるため、屋外で排泄した汚物がいかに人体に悪影響を及ぼすかを伝えました。また、水の保管のために800世帯にバケツを配布しました。

さらに、教育環境の改善のため、学校運営を担うPTAの研修や、先生たち20名を対象に基礎英語研修を行いました。

2013年12月末に起こった国内での武力衝突により、活動は休止状態にありますが、今後の南スーダン国内の状況を鑑みたうえで、支援の再開を予定しています。

●募金についての問い合わせ先　特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2　ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5351　FAX:03-5334-5359　Email:dservice@worldvision.or.jp